

居住環境評価と安全・安心に関わる対策行動との関連に関する調査研究

正会員○若林 直子*¹ 同 小島 隆矢*²
 同 眞方山美穂*³ 同 樋野 公宏*⁴
 同 布田 健*³

アンケート調査 対策 防犯 防災 日常生活事故

1. はじめに

居住環境の安全性を高めるには、個人や家庭での心がけや地域ぐるみの対策も重要な要素である。本報では、昨年度に引き続き¹⁾、住居や地域の安全安心に関する総合的な内容の意識調査を全国規模で実施し、対策行動はどのような認識と関連するのか等の把握を試みた。

2. 調査概要

Web 上で回答する形式の調査とした。対象者は全国の調査モニター登録者（25～54 才）で、性別、年齢層などはほぼ均等である。時期は2008年3月、有効回答は2,827。主な項目は、災害、事件事故など具体的な20項目に関する「リスク知覚（被害に合うなどの事態は起こると思うか）」「回避可能性（注意や備えにより回避できると思うか）」「安全-危険度」、住居・地域に関する総合評価、および「対策行動」に関する約50項目などである。

3. 結果と考察

■個人属性など

- 主に以下の人々で、ほぼ全般的に対策実行率が高い。
- ・年齢層は高く、近所づきあいは比較的深い。戸建て住宅、持ち家である。（「在宅時の施錠」は例外）
- ・普段から気をつけている方である。（例外はなし）

防災グッズ利用率は小学生のいる世帯で実行率が高いなど、対策の種類による一定した傾向も見られた。

■具体的な評価（回避可能性、リスク知覚など）

どのような事態かに寄らず「回避可能性が高い」と認識している方が、全ての対策において実行率が高かった。「リスク知覚」「安全-危険度」では、ポジティブな認識で対策実行率が高いことも、逆転することもあった（図1）。たとえば、「空き巣強盗」に対し住宅は安全と考えた方が近所と声をかけあうなどの対策をするが、リスクが大きく危険と考えた方が戸締りは徹底している。また、「路上犯罪」に対し地域は安全と考えた方が自宅周辺の見知らぬ人に声をかけるなどするが、リスクが大きく危険と考えた方が、不審者はいないか気にかけている。

■総合評価（魅力度、不満度、関心度、不安度など）

既報¹⁾と同様に、多くの対策行動と正の相関があるのはおおむねポジティブな評価である。顕著なのは、居住環境や地域の人々を好意的に評価している、住居や自宅に愛着や関心があるなどの評価項目である。但し、項目によって関連する対策や関連度合いなどが異なっている。

総合評価（ポジティブな項目とネガティブな項目）と各対策との関連を整理するため、以下の分析を行った。

- (1) 住居・地域別に、以下2組の項目を説明変数、各対策実行率を目的変数とした重回帰分析を実施。
 - ・魅力度、不満度 / ・関心度、不安度
- (2) 得られた各標準回帰係数を、縦軸をポジティブ評価、横軸をネガティブ評価とした布置図にプロットし、近くに布置された対策をグルーピングする。

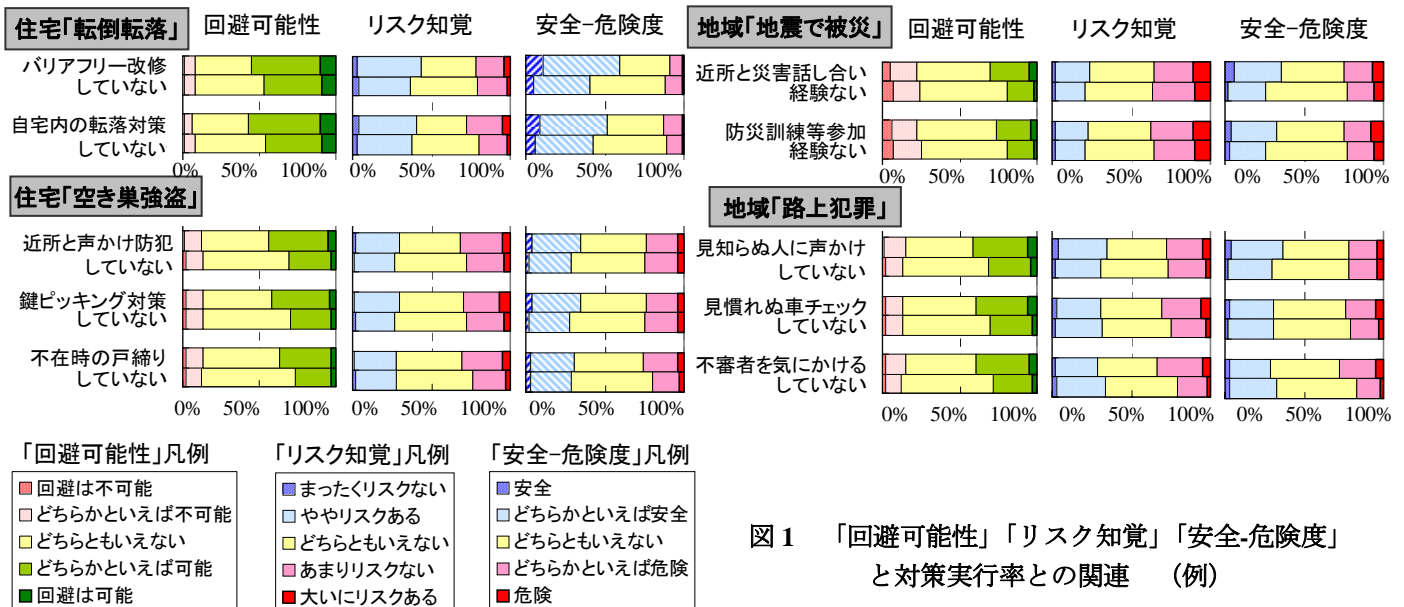


図1 「回避可能性」「リスク知覚」「安全-危険度」と対策実行率との関連 (例)

A study on the resident's behavior to make living environment safe and relation to their community environmental evaluation

WAKABAYASHI Naoko, KOJIMA Takaya, MAKATAYAMA Miho, HINO Kimihiro and NUNOTA Ken

結果は図2である。「参加意向」(4段階)を除く対策は全て2値(実行の有無)なので数値は小さいが、魅力度・関心度は常にプラスの値をとる、対策の布置状況が住居・地域ごとによく似ているなど、明らかな傾向が現れた。まとめると以下になる。

- ・居住環境を好意的にとらえ(魅力度は愛着や住みよさなどと相関が非常に高い)、関心を持つことが対策行動の基本となる。「不審者を気にかける」「見慣れない車をチェック」(図2:下線で表記)など、不安や不満と関連する対策でもこの基本は変わらない。
- ・住居では、「住居対策」がポジティブな評価と強く結びついている。とくに不満度・不安度とのマイナス

の関連が顕著なことから、「住居のグレードが高い」などですすでに対策が実施されているため、不満や不安は持っていない」という因果関係が考えられる。

- ・地域では、両図とも対策の布置が縦長である。ネガティブ評価よりポジティブ評価、なかでも「関心度」が対策行動に大きく影響するといえる。

- 1)若林・小島・樋野・布田:「生活環境の安全性の評価に関する調査研究」日本建築学会大会梗概集 D-1 分冊, 2007
- 2)若林・小島:住民意識調査による防災意識の構造に関する研究, 日本行動計量学会第29回大会発表論文抄録集, 2001

[注] 本研究は、建築研究所の重点的研究開発課題「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発」の一環として実施したものであることを附記する。

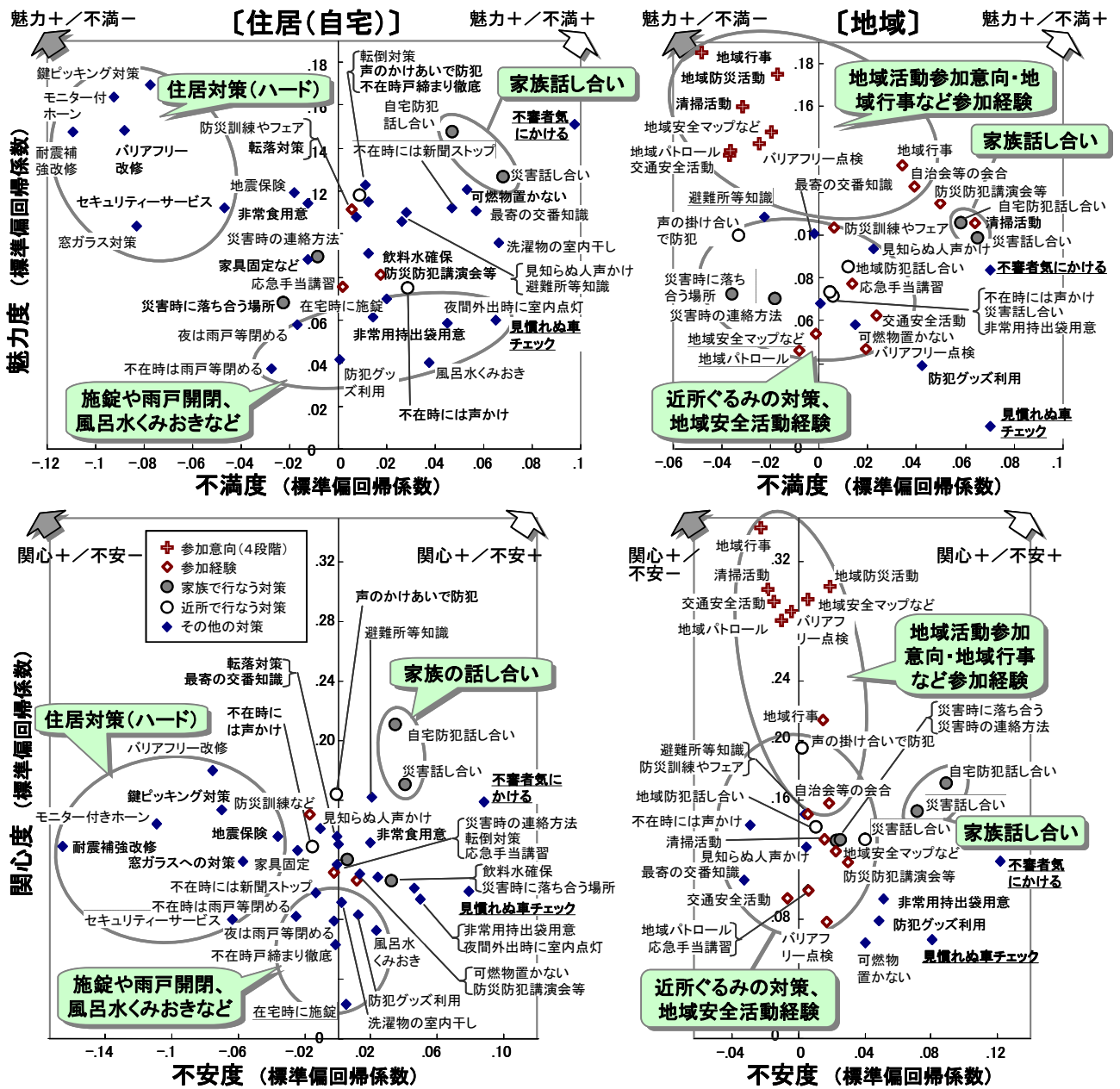


図2 総合評価と対策実行率との関連 重回帰分析結果(標準偏回帰係数)の布置図

*1 有限会社 生活環境工房あくと 代表・博(工)
 *2 早稲田大学 人間科学学術院 准教授・博(工)
 *3 独立行政法人 建築研究所 建築生産研究グループ 主任研究員・博(工)
 *4 独立行政法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ 研究員・博(工)

Representative Director, Living Environment studio act, Dr. Eng.
 Associate Professor, Faculty of Human Sciences, Waseda Univ., Dr. Eng.
 Senior Research Engineer, Dept.of Production Engineering, Building Research Institute, Dr. Eng.
 Research Engineer, Dept.of Housing & Urban Planning, Building Research Institute, Dr. Eng.